

科目名		建築計画Ⅲ				
担当教員		石井 孝典/佐藤 静/熊谷 貴子		実務授業の有無	○	
対象学科		建築士専攻科	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択		必修	単位数		時間数	80
授業概要、目的、授業の進め方		建築計画は、一般的に「計画原論(環境工学)」・「計画各論」・「建築設備」に大別される。計画原論は、建築物を取り巻く外部環境としての自然気象や都市気候について、また人体の生理におかかわる室内環境について学ぶ。計画各論は、人間工学的観点からの建築物各部の計画上の留意点及びそれぞれの目的別に計画される建築物についての計画上の諸要素とその具体的検討事項について学ぶ。建築設備は、給排水・衛生・空調、電気設備など建築物を維持管理するのに必要な各設備における具体的な事項を学ぶ。				
学習目標(到達目標)		計8回の模擬試験を通して二級建築士学科試験「建築計画」において、20点(25点中)以上の取得を目指す。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		2級建築士学科新体系テキスト【計画】 2級建築士学科新体系問題集【計画】				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	室内環境/換気			温熱感覚の要素・指標、空気線図の読み取りから温度や湿度の変化・結露の発生等を学ぶ。空気汚染の概要と法規制との関係性を理解する。必要換気量・換気回数の計算を学ぶ。		
2	伝熱・結露			建築物としての伝熱プロセスや、熱損失の計算を学ぶ。また、表面結露・内部結露の発生条件や防止対策、これに関連して断熱性や熱容量等、室内環境の変化について理解する。		
3	日照・日射・採光			わが国における季節ごとの太陽の動きや日影・採光について理解し、バッシブデザインとも関連付け、省エネルギーにも結び付く原理を学ぶ。		
4	色彩/音響/建築設備と環境			人間の視覚に影響する色彩は、マンセル表色系等の表示記号について理解。音響は、人間の聴覚の特徴や、吸音・遮音等による心理的な効果等。また近年の省エネ対策等を学ぶ。		
5	空調設備			空調機の機能や構成、建築物の熱負荷によるゾーニング、代表的な空調方式の特徴を理解する。また、省エネルギーの観点からバッシブソーラー等の技術を学ぶ。		
6	給排水衛生設備			給水設備では、飲料水の安全性を確保する手法や基準、給水の方式ごとの特徴を学ぶ。排水衛生設備では、トラップや間接排水、環境対策として排水の再利用等を学ぶ。		
7	照明設備/電気・輸送設備/防災・消防設備			電気設備や配電方式の特徴、照明の基本計画、各光源の特徴を学ぶ。火災発生メカニズム、消火の理論を学び、各種消防設備、火災報知設備及び避難誘導設備を理解する。		
8	住宅建築/商業建築/公共建築			住宅建築における留意事項、集合住宅の形式による特徴を知る。事務所建築や店舗の用途別留意点を学ぶ。公共建築では動線やゾーニングを理解し、法規と関連付けて学ぶ。		
9	各論一般/都市計画			建築物の細部の寸法・形状等について、標準的なものを理解し、また高齢者等にも配慮した計画について学ぶ。建築基準法やバリアフリー法で定められる内容を確認する。		
10	建築史			日本建築史・西洋建築史のそれぞれを、古代から遡って移り変わりを理解し、近年に至るまでの代表的な建築物や様式、設計者について理解を深める。		
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
平常点	課題	模擬試験	小テスト	近年、建築士試験の「建築計画」では、新傾向や初出題の選択肢が多い傾向がみられます。過去問対策だけでは得点しづら		
%	%	90 %	10 %			
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		石井 孝典：一級建築士として、建築物の設計、工事管理について、15年間携ってきた。 佐藤 静：一級建築士として、住宅設計に10年携わってきた。 熊谷 貴子：設計業務、インテリアコーディネーターとして8年実務に携わる。				